

2018年度事業報告

はじめに

フードバンク埼玉は、2017年10月、さいたま市から「NPO法人フードバンク埼玉」としての認証を受け、新たな飛躍への挑戦を始めました。

しかし、フードバンク埼玉は誕生間もないことから、2018年7月には生活困窮者支援用の災害備蓄米が底をつき、友誼団体から新品の寄贈を受けてその場を凌ぐ事態も発生しました。

フードバンク埼玉の“強み”は、生協グループによるフードドライブであり、年間を通してフードバンク埼玉の「在庫」を支えました。

また、埼玉県内に店舗を対象とした「スーパーマーケット」との連携が進みました。本年3月時点で、(株)ダイエー(8店舗)、(株)カスミ(15店舗)からの提供を受けています。また、さいたま市による「フードマルシェ事業」やコープみらい2店舗でも常設型のフードドライブが実施され、より安定的な供給体制となりました。

また、正会員(団体・個人会員)の拡大や賛助会員(団体・個人)の拡大も図ります。

1. 寄贈を受けた食品を、必要とする個人や施設・団体等へ提供します。

NPO法人フードバンク埼玉は、生活困窮者支援団体、子供のための支援施設、共生の地域社会づくりに取組むNPO団体、食品の緊急支援が必要な方に食品を提供します。

[食品の受入実績]

区分	重量
① FB埼玉会員からの寄贈	4588.2
② 企業団体からの寄贈	22,642.4
③ ダイエー・カスマストア	2138.3
④ さいたま市	1101.2
⑤ 個人からの寄贈	2230.2
	32,700.3

(kg)

[食品の提供実績]

	重量
① 生活困窮者自立支援	4,038
② 子ども食堂	5,569
③ NPOや各種支援団体	7,197
④ 個人(避難者を含む)	311
	17,115

(kg)

[フードバンクネットワークの拡大]

*株式会社ロッテ

*株式会社カスミ

*さいたま市（資源循環推進課/国際マラソン/消費生活課/市社協）

[マッチング事業]

カスミストアからの食品は、一部「子ども食堂運営者」や「生活困窮者自立支援事業所」が直接受け取りに行くマッチングによる受領も進みました。

[仕訳ボランティアの活躍]

2018年度は、2018年3月に開催された埼玉県生協連の「研修＆ボランティア体験」の成果として、年間を通じて仕分ボランティアの皆さんのご協力を頂きました。延べ人数で30人/年となりました。

2. 啓発事業

2018年度は、下記の講演を行いました。

①埼玉県資源循環推進課の寄付講座に協力しました。

*東都大学（深谷市） *埼玉県立大学（越谷市） *獨協大学（草加市）

*女子栄養大学（坂戸市）

②その他の団体

*浦和区民生委員研修会 *パルシステム埼玉 *狭山緑陽高校 *別所第3自治会

3. 調査・研究事業

①予定した「食品提供・受益団体アンケート」は行えませんでした。

②子ども食堂等との連携により「子どもの貧困」に対する調査します。

埼玉県少子政策課の呼びかけに応えて、「子ども食堂フォーラム」の開催に協力すると共に、今後の連携についても確認しました。

③埼玉県やさいたま市が設置した「防災ボランティア連携会議」に参加し、災害時のフードバンクの役割や機能について研究します。

*彩の国ボランティア団体ネットワークに参加しました。

*協働型災害訓練（NPO埼玉ネット等が主催）に協力しました。

*さいたま市防災ボランティア意見交換会に参加しました。

④その他

法政大学と現代福祉学部「コミュニティスタディ実習」協定書を締結し、学生ボランティアを受け入れました。また、跡見学園や城北高校などの生徒からのヒヤリングに協力しました。

4. 寄付事業

NPO法人フードバンク埼玉は、食品だけではなく生活困窮者施設・障害者通所施設・児童養護施設等への衣類・生活必需品等の寄付事業に取組みました。

- * コープデリから寄贈された紙おむつについては、社会福祉法人富士見乳児院を通じて埼玉県内各地の乳児院に寄付しました。
- * パルシステム埼玉から寄贈された日常雑貨（シャンプーや台所用品）は、シングルマザーの会、ふじみの国際交流センターなどに寄付しました。

5. その他

- * 生活困窮者支援食品の欠乏
- * 首都圏（関東圏）のフードバンク間連携
- * 農林水産省関東農政局主催のフードバンクフォーラムへの参加
- * パルシステム連合会主催のフードバンク意見交換会への参加
- * コープみらい（当面2店舗）による常設型フードドライブが始まりました。

以上